

# I. 2025 年度事業計画

## 1. SICE ミッションと基幹事業

2024 年度に理事会で策定された「SICE ミッションと基幹事業」を以下に示します。

## SICE ミッションと基幹事業

### ミッションステートメント

現代社会における「さいす学（計測・制御・SI・知能・産業・ライフ・システム・情報・社会などの調和的学術領域）」の発信中核学会として、

- ① 諸分野を横断して知を究め、新しい価値を創造し、
- ② 関連分野・産官学のハブとなり、発信・連携することで、社会的課題の抽出・解決に貢献する。

### 学会基盤の強化：

「さいす学」を発信することにより構築する本学会の存在意義を基底に据えた上で、根幹であるカンファレンス開催と論文出版を基盤とする学術活動を再強化する。更に、会員数減少等の環境変化に応じて財務構造と運営基盤を改革し、学会運営・事務局体制の効率化と、学会の魅力化・学会内連携の活性化の両立を進める。

### 社会貢献：

「さいす学」に関する学術及び技術の進歩発達を図り、文化の向上並びに産業の発展に寄与する。そのために、分野横断を推進し SICE 発信の新たな価値を創造する。その施策として、国内外の若手等の多様な人材を育成し、卓越した成果を創出し続ける場を構築する。

### 国際貢献：

アジアそして世界に向けて、「さいす学」分野に関わる様々な知の交流の活性化を図るとともに、研究・技術成果を発信する。その施策として、SICE Festival with Annual Conference(SICE\_FES)開催や英文論文誌発行を進め、更に標準化の推進において国際的役割を果たす。

### 会員への貢献：

「さいす学」に関する会員の活動を支えるために、会員に対する情報提供、情報の発信・交換する場の提供、会員活動に対する表彰に取り組む。

### 学協会・産業界への貢献：

国内外の学協会および産業界との連携活動に参加するとともに交流を促進し、関連学術・技術分野の横断的な連携の強化に柔軟に取り組む。

### 基幹事業

- ・ SICE\_FES(Festival with Annual Conference)開催
- ・ 部門主催講演会、支部主催講演会等の開催
- ・ 部門・支部内各種事業および研究会活動
- ・ 各種セミナー・展示会・見学会開催
- ・ 関連国際会議、国内会議、展示会の共催・協賛
- ・ 国内外学協会・工業会等との連携
- ・ 学会誌、論文集発行
- ・ web 等による情報発信
- ・ 技術者教育と資格認定
- ・ 標準化活動
- ・ 各種学会賞贈呈
- ・ 産学連携
- ・ ダイバーシティ推進による若手・女性研究者の活動支援・活性化
- ・ その他

## 2. SICE 中期的課題と事業計画

2024 年度に理事会で策定された「SICE 中期的課題と事業計画」を以下に示します。

	中期的課題	事業計画	主担当組織	副担当組織	
学会基盤の強化	0 そもそも SICE とは？	0.1 SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。	全組織		
	1. 柔軟な組織間連携などによる学会活動の活性化	1.1 SICE FES 2025 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画	カンファレンス委、部門、支部	部門協、支部協	
		1.2 特定費用準備資金の有効活用	財務委	部門協、支部協	
		1.3 部門・支部のあり方についての検討	総務委	部門協、支部協	
	2. 講演会活動の FES 化による充実	2.1 カンファレンス活動(FES、部門大会、部会研究会、支部大会等)の全体調整と FES 化を見据えた見直し	カンファレンス委、部門、支部	総務委	
	3. 出版活動の充実	3.1 和文論文誌と英文論文誌の位置づけおよび編集方針の見直しによる投稿数拡大、和文論文誌のデジタル化	総務委、和論委、英論委		
		3.2 会誌のあり方の見直し、デジタル化の推進	総務委、会誌出版委		
	4. 緩急ある学会運営のスリム化と効率化	4.1 理事会、直轄委員会、事務局運営業務のスリム化と効率化と理事の任期の柔軟化	総務委		
		4.2 ウェブ更新効率化による情報発信の促進	メンバー委	総務委、企画委	
		4.3 学会運営ワークフローの DX 化検討	総務委		
	5. SICE の財務基盤の強化	5.1 年間収支のモニタリング・分析に基づく、予算立案プロセス改善と中長期施策の立案、デジタル化の影響の見極め	財務委	総務委	
	6. 継続事業とコンプライアンス	6.1 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守	全組織		
		6.2 アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進	全組織		
社会貢献	7. SICE が主導する「さいす学」の発信と Society 5.0、SDGs 等社会的課題への SICE の取り組み	7.1 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信	総務委、メンバー委	各部門、支部	
		7.2 社会貢献を推進する表彰制度の実施	総務委、学会賞委	メンバー委	
国際貢献	8. SICE による日本独自の「さいす学」の発信と SICE の国際性向上	8.1 SICE FES を通じた SICE 国際プレゼンスのさらなる向上の志向(裾野の広がりと質の高さを両立する場の形成)	カンファレンス委	総務委	
		8.2 SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議(SICE202x、IFAC、IMEKO、IEEE 関連行事)への開催支援	カンファレンス委	部門協、担当部門	
		8.3 英文論文集の国際的評価基準(Citation Index, Impact Factor)獲得へ向けた活動の継続	英文論文委	総務委	
		8.4 国際標準化活動の促進および表彰	インダストリ委	各部門、支部	
会員への貢献	9. 会員への情報発信と教育支援	9.1 AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画	メンバー委	インダストリ委	
		9.2 若手及び中堅会員への活動支援の実施(表彰制度、会員情報の整備及びそれを活用した支援)	総務委 学会賞委	メンバー委	
		9.3 教材(理科、制御)の提供、進路相談ならびに資料の提供	メンバー委	総務委	
		9.4 高校生の SICE イベントへの参加、ジュニア会員の創設	メンバー委	総務委	
	10. 企業会員のための施策の強化	10.1 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し	論文委、カンファレンス委、部門協	インダストリ委	
		10.2 SICE エグゼクティブサロンの開催	インダストリ委	総務委	
		10.3 AC/部門大会におけるチュートリアルの活性化	カンファレンス委、部門協	メンバー委	
		10.4 地方活性化の検討(非会員地元企業との連携、など)	メンバー委、支部協	支部、カンファレンス委	
	学協会産業界への貢献	1 1. 工業会との柔軟な連携強化	11.1 他団体との連携セミナー企画	インダストリ委	メンバー委
			11.2 ニューインダストリ分野(自動車・ロボット等)の企画推進	インダストリ委	部門協
1 2. 学協会との柔軟な連携強化		12.1 IFAC2023 Industry Group 活動継承(Wagora 活動の実施)	インダストリ委		
1 3. 見えない壁の無効化によるダイバーシティ推進	13.1 SICE Diversity and Inclusion Activity (SICE-DIA) の運営、啓蒙や情報発信の企画・実施(会誌特集号の検討)	メンバー委	総務委		